

平成28年度 研究所研究実績報告書

平成29年6月9日
部門長名 宮野 周

研究所・部門の名称	人間生活科学研究所・幼児教育部門		
設置年限	平成25年4月1日～平成30年3月31日		
1. 研究の取組状況			
<p>本研究所の幼児教育部門は造形発達の視点からデータを収集し、そのデータの集積の中から乳幼児の発達研究を平成10年から行ってきた。引き続き協力園等の資料提供・データ収集により、平成28年4月時点でJImagerのデータ数は7万点を超えた。</p> <p>平成28年度は本データベースを研究所所員と共有し相互の専門性を生かした幅広い研究交流を図ることが目的であったが、本データベースの研究基盤となる美術教育を専門とする幼稚園教諭・保育士養成校教員らと意見交換等の研究交流を主に行った。また資料提供園へのデータベースの活用について意見交換を行った。</p> <p>本データベース内の不具合や機器トラブルが発覚し、その修正に時間を要している。</p>			
2. 研究の成果・概要および公表実績・予定（年月日、開催場所、方法等）			
<p>これまで継続してきたデータ収集によるデータ数の増加と本データベースの不具合の修正を行った。また11月のJ-club（十文字学園女子大学巣鴨サテライト）において平田智久により本データベースの分析例をもとにした発表『造形発達論—今、なぜ発達論なのか』を行い、他大学の養成校教員を中心に本データベースについて意見交換等の研究交流を行った。また平田智久により研究成果の一部を美術科教育学会（十文字学園女子大学巣鴨サテライト）乳・幼児造形研究部会（2016年12月10日）にて発表した。</p> <p>さらに当年度の卒業研究にも本データベースを以下のように応用した。</p> <p>幼児の描画は見えている対象を再現するのではなく描く時の強い興味関心によって意味づける…ということは常識化している。そうした考えを基に幼児期の人への興味の強さを調べてみた。月齢ごとの人物出現の割合を3歳0ヶ月から6歳10ヶ月まで(58400枚の中から)を絞り込み、さらに各年齢ごとに出現率を比較すると3歳ころは20%程だが6歳を過ぎるころには60%近くに増加していることが明らかになった。さらにその人物画の対象(モデル)は誰なのかを調査すると、興味関心の対象が3歳ころは親が80%だったが4歳を過ぎるころから友達が増加し5歳の誕生日には50%～60%に増えている。そうした変わり目が5歳の誕生日ごろであることが明らかになった。</p> <p>そのことは母子分離が重要であること、年中組(4歳児クラス)の保育内容の見直しが必要であり、年長組(5歳児クラス)のグループワークが重要であることを裏付ける結果を得た。</p>			
本報告書作成担当者 所属・氏名		連絡先内線番号	
幼児教育学科 宮野 周		367	

平成 28 年度 (2016 年) 研究概要

研究所・部門	人間生活科学研究所・幼児教育部門
研究課題名	乳幼児における造形発達研究—描画発達検索システム「JImager」の構築—
研究代表者	宮野 周
研究期間	平成 28 年 4 月 1 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日
共同研究者	平田智久・平田智秋・宮里暁美・岡上直子

1. 研究成果取組状況

(1) 国内外の学会発表

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所	招待講演
発表済	平田智久により『造形発達論—今、なぜ発達論なのか』を主題に研究成果の一部を美術科教育学会（十文字学園女子大学 巣鴨サテライト）乳・幼児造形研究部会（2016 年 12 月 10 日）にて発表	
発表予定		

(2) 雑誌論文（学内紀要含む）

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所	査読有無
投稿済		
投稿中 投稿予定		

(3) 図書等の出版

状況	発表者，発表課題，学会誌名，発表年月日，発表場所
出版済	
出版予定	

(4) シンポジウム・講演会等の開催

状況	主催者名・協賛社名等，講演（発表タイトル），実施年月日，実施場所
開催済	
開催予定	

(5) 本研究に関連して本学経費以外に支援を得た補助金など

年度	機関・財団名，事業名，課題名